

# 開発のための新しい資金動員に関する有識者会議 第1回会合

## 議事概要（委員からの主な発言）

### (1) 総論

- 金融機関にはサステナブルファイナンスへの高い潜在意欲があり、今回の会議は非常に時宜を得ている。

### (2) 現状の課題と今後検討を進めるに当たっての具体的な論点

- 民間企業が JICA や国際機関と連携する上での課題として、スピード感や国際約束の締結等の手続の煩雑さが挙げられる。民間資金動員のためには、既存制度の枠内で新制度を設計するのではなく、**民間企業目線で使いやすい制度設計が重要。**
- 新しい民間資金動員のためのありうべき手法として、保証やエクイティ型資金の導入も選択肢。
- 手法の検討にあたっては、**公的資金の投入を正当化できる分野や官民でのリスク分担のあり方、市場歪曲回避の方法、受け皿となる組織及び先方政府のガバナンス及び透明性の確保、国民及び投資家への説明責任、技術協力等を活用した適切な政策誘導によるエコシステムの構築**を考慮すべき。
- 新しい制度の導入にあたって、**実施体制及び人材の確保**、（利益誘導排除のための）**適切な意思決定プロセスの確立**が必要
- JICA の強みとして、無償資金協力や技術協力を含めた多様なツールや、長年にわたって培われた支援の知見（特に評価機能）・ネットワーク等に期待。

### (3) 開発とサステナブルファイナンスのあるべき捉え方

- **サステナブルファイナンスとは、元来サステナブルな社会における金融のあり方であり、当然開発の概念も含まれる。**「開発のために民間資金を利用する」という手法論に終始することなく、開発に資する事業に民間資金が自動的に流れていくような**エコシステムの構築**を目指すべき。